

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第6回高松市創造都市推進懇談会
開催日時	平成25年7月11日(木) 18時30分～20時30分
開催場所	四番丁スクエア 会議室
議 題	(1) 推進ビジョン主なプロジェクトについて ・「国際会議」 ・「こども」 (2) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	人見会長，甘利副会長，鎌田委員，中筋委員，西成委員，英委員，広野委員，真鍋委員，山家委員
事務局	宮武，松本，佐々木，佐野，溝渕，永木，東原，藤田，西川，寺川，上野
傍聴者	1人 (定員 5人) 四国新聞(中川記者)
担当課および連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

### 審議経過および審議結果

(1) 第6回高松市創造都市推進審議会の報告

事務局から説明

(2) 「創造都市推進ビジョン」主なプロジェクトについて

事務局から資料の説明

～国際会議～

(会長)

国際会議の「目的」と「取り組みイメージ」についての説明。

(会長)

私がこれを読んで感じるのは、せっかく素晴らしい施設があるので活用しようと、誰かを呼んでこようとするのであれば、もっと国際的に情報を発信して注目を集めるべき要素があると思う。先進国がこれから直面する課題をあらわしていると思う。国際的に情報発信をしながら、ともに活動していく。

(委員)

高松コンベンションビューローがあるが、その主たる仕事がコンベンション誘致であると思うが、その取り組みとして何か問題があれば聞きたい。

審議経過および審議結果

また、高松に外国の人が来られてどうしているのかなと思うことは両替所がないこと。日本全体の話かもしれないが、海外には街中に exchange がたくさんあるが、日本には exchange がほとんどない。外国人向けの日本のガイドブックを見ると、日本にはびっくりするほど両替所が少ないと書いている。

(委員)

愛知は両替所が多い。東京について二番目に多い。理由がわからないが。

(会長)

労働者が多いからか？

(委員)

そこで儲ける人がでない仕組みになっている。

(委員)

コンベンションビューローの活動が良くないのか。もっとうるあるべき論があるのか。それなりにやっているというイメージはあるが、他県と比べて国際会議が少ない、多いというのが数値データとしてどうなのか。香川でやるということは、主たる国際空港から遠いので、大阪と比べてハードルは高くなる。それも考え方によって、新幹線に乗れるというアクティビティと、瀬戸大橋を渡れるというアクティビティがもう少しポジティブに捉えられると面白いと思う。

(会長)

国際的な情報発信がポイントになる。

(英委員)

魅力ある場所であるということ。

(委員)

国際会議のテレビ会議に関しては、香川で集約して、それを市民が配信するとしてもいい。それをやることでどういうメリットが市民に生まれるか。世界の環境を考える会議とか。

(委員)

高松で国際会議を行うメリット・独自性を世界に発信できるかどうか。

(会長)

島がメリットになる。

(委員)

質問がある。国際会議の問題点を聞きたいのと、なぜ、国際観光ではなく国際会議なのか。

(委員)

MICE の中にはツアーも入っているので、もう少し広くてもいいと思う。これはサンポートを使わなくてはいけないということか？そういう意図であれば、しばって話した方がいい。例えば、MICE に入っている、会議・招待旅行・展示会のように幅広いあらゆるツアーを想定しているのか、サンポートを使って何かをするのか。サンポートを使うのであれば、港町なのでサンポート～島をからめていくのはいいと思う。

(委員)

なぜサンポートの話なのか？

(委員)

稼働率が悪いから？

サンポートが持っている会議室としてのスペックを知りたい。何人入れて、どういう設備があるのか。また他の地域との比較がないと、議論ができない。

(局長)

うろ覚えだが、市の施設と県の施設があって、国際会議場は県の施設である。スペック的には最大200人規模で、6ヶ国語まで通訳が可能。円卓の国際会議的なレイアウトにすると100人くらいしか入らない。附属の会議室も2つくらいしかなく、市の施設を使うようになる。市の会議室は100人程度入るのが2つ、45人ほど入るのが2つ、さらに小さいものが5つほどある。市の施設にはホールがあって、大ホールが1500人、小ホールが2つありそれぞれ300人入ることができる。ただ、それらのホールは文化芸術ホールとしての性質ももっているのだから、市の方の施設の稼働率はホールとしては7割を超えていて、なかなか予約がとれない状況。県の国際会

議場は、純粹にコンベンション施設なので料金も高く、また、「国際」と名前がついているので普通のコンベンションでは使ってはいけないと思われているのか、稼働率は5割に満たないと聞いている。

(参事)

サンポートと書いているが、国際会議と言ったときにサンポートが一番イメージしやすいかなと思って書いているので、サンポートに限って議論をしてほしいというわけではない。

(課長)

この題名はもともと MICE だった。しかし、分かりやすくするために国際会議とした。この議論は MICE で良いので、会議、招待旅行、大学学会、展示会を含めた会議をイメージしている。

(委員)

宿泊の問題が一番大きいと思う。どのようなイベントでも、県外から来ても泊まらない。そもそもキャパが少なく、すぐに満室になってしまう。それをまず増やさないといけないと思う。

(委員)

ちょっとした集まりでもすぐに満室になる。

(鎌田委員)

第一回の会議でできましたね。

(委員)

宿泊施設をどう増やしていくかということも考えなければいけない。うちの学生がゲストハウスを運営したいということで探した結果、今、尾道にいる。そういうふうに、若手で、高松の中で活動ができるような仕組みを考えられたらと思う。

(委員)

商店街にある空き店舗利用した宿泊施設を考えてもおもしろい。

(委員)

屋島の山上の廃墟がすごくもったいないと思う。素晴らしい景観の土地なので、活性化にもつながると思う。

(委員)

それはいいと思う。盆栽の時もホテルの確保がすごく大変で、JTB さんくらいの強い力で、どこにどう人が来るか分からない状態でホテルをブロックかけないといけない。ブロックをかけるのも強い大人の力がなくて難しい様相であった。

(委員)

普段の収支が合わないと作れない。原点に戻って、夜と早朝の観光名所を作ったら自ずと泊まると思う。夜のこの景色が素晴らしいとか、早朝となると泊まるしかない。

(委員)

観光を進めている地域に聞くと、規制緩和をすごくしていて、旅館法で、避難の方法や、緊急の場合の連絡法など、かなりがちがちに固められていて、新規に旅館をやるにしてもお金もかかるし、リスクも高いので新規でやりたいという人も少ない。既存の旅館をやっている人の中で、観光客のケアをやっている。脱皮したいという人は、市と一緒に、旅館業法の一部の規制を緩和して、例えば食事は出さないが、自分たちでつくるような体験プログラムをいれる。そういったところに行政がかかっている仕組みと転換をしたいという人たちにノウハウを伝え、もっと安く提供できれば。まずは、行政の中に相談所を設けるなど、ネットワークを作っておいてそういう人を紹介してくれるなど。

(委員)

宿泊が足りないという前提で話をしているが、本当なのか？

(委員)

会議があるときオンリーです。

(委員)

会議がある時に、4～500人集まるとして、4～500人泊まるとして、琴平、塩江、小豆島などを合わせて足りないか？

(委員)

そこまで足を運ばなければいけない。

(委員)

国際会議とツアーを合わせようという発想で、その宿まで含めて考えれば足りていると思う。旅館を建てるという議論は非現実的である。民泊という選択肢もあるが、国際会議に来る人と民泊する人はリンクしない。もう少し泊まる範囲を広げてみては。鳴門に泊まっても1時間である。十何時間かけて来た人にとって、宿から会議室まで1時間くらいは遠いものではない。そうやって、泊まるエリアを広くとらえていくべきだと思う。僕らはコンパクトシティといって暮らしているから、鳴門が遠いと感じるかもしれないが。

(委員)

歩いてサンポート来れるというメリットにしたくなるけど。

(委員)

琴平に泊まっても1時間である。サンポートの200人の会議室で、家族と一緒に来て、事務局の人も合わせて泊まれるような環境。宿を増やすというのと違うアプローチで、その移動を楽しんでもらう、その土地を楽しんでもらうといった方が、現実的にスタートしやすいと思う。塩江もいいところだし。

(委員)

国際会議は、代理店がよくコーディネートするので、500人というキャパを町で賄おうとすると、結局大きい都市にとられてしまう。移動する範囲も含めて、提案することが大切だ。

(委員)

島から船に乗って会議場までやってくるとか面白そう。そういう発想を呼んでくる人間が提案するかということである。

(委員)

呼んでくる人って誰？

(委員)

旅行代理店である。

(委員)

コンベンションビューローはどう考えているのか？その人たちは、県の職員？

(局長)

市の職員はいない。プロパーと市のOBや業界の方が理事でいて、誘致などをしている。

(委員)

この場にその人たちが欲しい。

(委員)

原点の話であるが、外国の人が行きたいと思う土地であって、日本の人もそこでするなら納得できるという場所でないといけない。

(会長)

例えば、北海道で南国の海のテーマを考えるなんてありえない。どこでどういうテーマを話すか、いかに国際的に関心があり、発信をしている状況にあるのか市民も関心のあるテーマの国際会議が開かれると歓迎ムードになる。

(委員)

なぜ歓迎するかといえば、お金が落ちるからである。

(委員)

歓迎ムードの作りこみにはすごい批判もあって、トライアスロンで中央通りを止めるが、警察にしたら大変で、市民がそれを知らなくて通れなかったときに、反発がある。

(委員)

これをやっているから仕方ないという。

(委員)

コンベンションビューローは、採点のときに「実現性」という項目があると思うが、実現性が低いからこそ面白いと思う。チャレンジすべきなのではないか。実現性で落ちてしまう企画が多いと思う。実際同じ企画が他府県で通ることもある。

(会長)

スポーツでは国際会議はないか？

(委員)

今までの祝祭などはこちらのことをやったらというイメージできたが、今回のテーマだけイメージができず、こういったジャンルの人が来ているのか、それだったら観光の一つに入れたらいいのではないかといろいろ考えた。国際会議を誘致するもう一つ前の話で、そのための環境整備の話があがっていたと思う。生涯スポーツの関係ではイメージができない。

(会長)

外国人向けの sign, 英語表記も気になる。

(委員)

国際なんですよ？日本の何かを決める会議も香川でできたらいい。その積み重ねで国際会議として使われるのでは？

(委員)

大型の会議。全国の学校の先生が集まるような。

(委員)

国賓を招くわけなので、セキュリティの信頼度も必要である。東京で会議をして、アメリカの大統領が来る時は、都内の公園に、深夜、公園の茂みに警察が潜んで、前日からそこに潜む人を防ぐ。

(委員)

国際会議の稼働率はどれくらいなのか？6ヶ国語使えるが、サポートで国際会議をやっているイメージがない。

会議室の稼働率と、国際会議の稼働率はどれくらい？盆栽以外に記憶がない。

(局長)

現状、年1、2回程度、行政が呼んでくるもの。学会や国の機関の集まりなどが、年に1回多くて2回くらい。それで6ヶ国語翻訳を使っている。市では来年は日仏の自治体交流がある。

(委員)

年に1・2回のために投資できない。

(会長)

ここで国際会議をしようという雰囲気作りだと思う。

(委員)

上海便の就航で中国人がたくさん町に入ってくるのを、市民は本当に喜んでいるのか？

(委員)

外国人からお金を取ろうという意識でいくかどうかだと思う。沖縄行くと、観光でお金を使うしかない。そういうやり方だと外国人からの収益はあがる。

(委員)

外国人はおみやげだけでなく、コンビニでの買い物とかも楽しんでいる。

(会長)

外国人は高松での国際会議というどんなイメージをもつ？

(委員)

高松は安心な気がする。セキュリティ的には安心だと思う。

(会長)

災害が少ない。

(委員)

それもあると思う。

(委員)

日本国内でも47都道府県、47分の1の競争なのに、国際会議だとどこの国を選ぶかというところから始まるのに、都市で選ぶことはあるのだろうか。高松だと情報発信が少ない。アメリカでも有名な都市を挙げなさいといっても、そんなにあがらない。ニューヨーク、サンフランシスコ、ワシントンくらいだ。日本でいうと、大阪、京都、神戸のようなもの。

(会長)

披雲閣はだめか？例えば、船上会議とかは？

(委員)

常に船上の会議用の船を持っていると、世界的にもパンチのある話になる。

(委員)

盆栽の世界大会も、松盆栽の畑があるというのを、盆栽をやっている人たちは死ぬまでに見ておきたいというインセンティブがあるから高松で開催できたが、それ以外の場合では高松でやる動機がない。

(会長)

逆もありで、国際的に認知をして欲しいテーマや素材を発信していくという取組みもいると思う。

(委員)

発信するという行為。島、海は国際的に見ても面白いというか、あまりないロケーションだと思う

(会長)

オリーブ、盆栽も。

(委員)

高松でやるべき国際会議を企画する話と、一般的な国際会議をどう誘致するかという話とがあって、混在している。要するに、世界うどん大会だったら高松でやろうという議論になると、一般的に、泌尿器科学会というように営業をかけてやっていくのでは、ぜんぜんアプローチが違う。後者の議論は、代理店の営業力。そこに向けてどう伝えていくか。前者の議論は企画力である。創造都市であることを前提にするなら前者であって、場所から入ってテーマを決めるほうが、この会の主旨にあっていると思う。

(会長)

こんな会議があったらというのがあれば。

(会長)

オリーブ。

(委員)

水の会議。

(会長)

人口減少の過疎化。

(委員)

農村歌舞伎、獅子舞。

(委員)

海。

(委員)

四国全体になるかもしれないが、お遍路さんとウォーキング関係を組み合わせたら面白いと思う。

(委員)

ヨットレースも面白いと思う。

(委員)

こっちに来て一番すごいと思ったのは晴れが多い。太陽光、塩田跡地を太陽光に替えるとか。

(委員)

大の場サンシャインランドを作るのはどうか。

(委員)

今あるものでとなると、思い浮かぶのはうどんしかないが、作ってはどうか。歴史で勝てないなら作れば良いと思う。桂由美さんが恋人の聖地といえはそういうポイントとなる。島根でもお守りが売っていて、京都の地主神社の次に売れている。作る勇気だと思う。全員が恥ずかしくてもものっかっていったら。現実的にできるなら、水不足対策学会。太陽光よりも、世界的に環境として認められるなら、風力だと思う。

(委員)

トライアスロンも中條さんの大茶会もあともう一步踏み出せば、世界的になると思う。世界Teaミーティングとか。

(委員)

今あるものを、もう一步ステップアップすると国際的な存在になると思う。それこそ、市民と行政が一緒になってやるべきだ。世界麺類学会とか。

(委員)

2010年の瀬戸芸で島の体育館でシンポジウムをやった時に、内容はよくわかないんだけど、地元のおばちゃんたちが500円持って聞きに来てくれたのがいいなと思った。せっかくコンパクトシティなので、専門家だけではなく、いろんな人が入れる会がいいと思う。

～こども～

(会長)

【目的】と【取組イメージ】について説明

(委員)

先日の審議会でも子どもの話がでたが、ある委員からの話で、子どもたちに未来を伝えていくというのは、教育者にどう意識をもってもらうかが大事で、西成先生も言ったが、国際会議だったらコンベンションというように、子どもというテーマがあるが例えば教育関係者が委員にいないので、香川県の教育委員会の人とどう連携していくかも考えるべき。また、クリエイティブになれと話をしても、クリエイティブにならない環境にいと子どもたちが戸惑うだけなので、考えて欲しいという話がでた。

(委員)

例えば市役所職員はクリエイティブな環境にいますか？今から頑張ろうとしている。香川大学も創造的にやりたくても壁がある。みなさんそういう壁を取り払いながらやっていると思う。

(会長)

創造力と書いてあるが、創造力とは何かをかみ砕かないと一生漠然として終わってしまう。それが、例えば、取組みイメージがいるが創造力とは何かということを実体化しないとよくわからない。

(会長)

創造力のプロセスに思考力・判断力・表現力とあって、これらを持った人間を創造的と思う。そのことが、小学校の平成20年に出た指導要領の中で、第3章に「思考力・判断力・表現力を育め」と書いている。これが平成22年から実行されている。知識の偏重だけでなく思考力・判断力・表現力を育みなさいとある。

(委員)

今、小学生・中学生を教えに行っていて、先週、中学生に将来の夢を聞いても誰も答えない。放送部に西日本放送に出たいかと聞いても誰も手を挙げない。個別に聞くと答える。どういうことをやりたいかということ人を伝える能力が欠けている。

2016年からタブレット教育がスタートしたらそこがもっとひどくなると思う。いろんなところが調査結果を出しているが、校内暴力は香川県はワースト3に入っている。先生に対する暴力はトップクラスである。なぜか？また、軽犯罪も一位である。

(委員)

万引きを調査している教員に聞いてみたら、軽犯罪を必ず警察に報告する県民性もある。校内暴力もどこからどこまでが暴力か分からないし、場合によっては。すごく難しい。なぜかはわからない。必ず報告するという生真面目な県民性もあると思う。

(委員)

実際報告された件数と実際起こった件数も出ているが、そんなに離れていない。不登校児も学校が隠したが事実であるが、内閣府と文科省データも違ったりする。真ん中より良いほうではない。どのデータをとっても。ただ、不登校になった子どもを復活させる能力は高い。創造都市が何か分かっていないが、地域のローカルな課題を解決する方法が、できる街がそうなのかなと思う。校内暴力もそうだし、交通事故も多い。そういうこと解決するとき、違った切り口で解決できるのが、創造都市なのかなと思う。

(会長)

目的にもあるが、これからの高松を担う子どもとあるので、創造都市をこれから担っていく人材としてみていこうという意味だと思う。表現する前提というのは、表現するもの以上に、受け止める相手側の寛容性も必要である。リチャード・フロリダは「自信がいる」と書いている。その自信がつくには受け止める側の寛容性だと思う。親がきちんと子どもの問いかけにどう反応しているかということが、子どもの自信につながる。

(委員)

この間の審議会でもう一つ出た話で、家庭教育は母親の力が大きく占めているので、母親力を向上させる取組みの話が出た。

(会長)

そこで、「家庭との連携を図る」と書いているが、家庭との連携がポイントだと思うが、現実的にどうかというと、共働きで帰りが遅い状況。僕は、ここの項目に地域コミュニティという言葉が必要で、地域全体で子ども育んでいくというのが大事。

(委員)

結局万引きもそうだが、〇〇にはスーパーが3軒並んでいて、一番面積の大きいスーパーは半年間で50万円分も万引きにあっている。高齢者や中学生だったりいろいろだが、それを地域の方から抜き打ちのパトロールをしたりしている。地域の方がパトロールすることによって、見られていると思ったら、万引きしようという手が止まる。大人もそうだが、見られてないから大丈夫、自分ひとりは大丈夫というのではない。ごみを捨てる親にはごみを捨てる子どもができる。親の姿勢、大人の姿勢をどれだけ見せていくのかなと思う。

(委員)

創造都市の担い手は、マナーの良い子どもというのと繋がるのか？

(委員)

方法が、芸術文化なわけである。シビックプライドも調整しながら、自分たちの街を誇りに思えるようになれる大人、子どもを育てていく。

(委員)

思考力・判断力・表現力の全方位で期待をされると子どもはしんどい。そんな優秀な子どもはいない。バランスの悪さを肯定してやることの方が大切である。クリエイティブというのは、思考・判断・表現が備わった人しかクリエイティブというのではない。マナーが悪いし、ルールも守れないがクリエイティブな人もいる。そういう可能性を認めてあげないと。

(会長)

その点でいくと、取組みイメージが子どものあり方ばかりで、それを受け止める側の寛容性・多様性がない。

(委員)

家庭でのしつけ力は必要。

(委員)

万引きは軽犯罪ではなく、精神的な犯罪の方が多いと思う。圧迫されたストレスのはけ口でお金持ちの主婦の犯罪もある。

(委員)

追いかけるスリルがいいという人もいる。

(委員)

本当に欲しくないものでも万引きする人もいれば、かまって欲しかったという理由の子もいる。

(委員)

例えば、どう万引きするかというのも創造的では？創造的な教育と、創造力を養うのと校内暴力・引きこもりは、別である。

(委員)

家で絵を描いている子を見つけてあげることも大切だし、それを褒めて伸ばしてあげるのも大事。とんでもない万引きをしてとんでもないボランティアに使う子が出てきたらそれも創造的なものかもしれないが、結局、自分の思いを人に伝えたり、自分が人と違っていても恥ずかしくない、誇りを持っているというエデュケーションが大



事。

(委員)

その基本は親から認められるというか、親の姿勢が大きい。

(委員)

これからの高松を担う子どもの創造力について、思考力・判断力・表現力をすべて兼ね備えようと取組みをするとしんどい。だからといってマナーの良い子を育てようではなく、コミュニケーション力を育むことが表現力の育成につながると思う。

(会長)

それは段階であって、自分で考えて、そういう判断をして、コミュニケーションができるというプロセス。

(委員)

思考できてないときも、思考できてないと言える。要するに、分かるものは分かる、おいしければおいしいと。自分の意思を言えることは自分に自信、誇りを持っていると思う。

(委員)

言えない子というのは、何か言った時に否定されて育った。

(委員)

否定するほうも、コミュニケーション力が高ければ、ちゃんと説明できる。香川から都心部に行った大学生でクラス一華やかでうるさい子がおとなしくなってしまうような。例えば高松に限っても、塩江中の子が高松市内の高校に進んできた時に、クラス元気だったのに大人しくなってしまう。周りが増えれば増えるほど、自分を表現できなくなる。

(委員)

少人数の学級なので、先生が目が行き届きやすくなる。

(会長)

多様な人の中で、自分がどう立ち回るかで、大人では普通にできる。子ども同士の遊び以外学ぶ機会はない。

(委員)

子ども同士でゲームを持ってきてやっている。昔みたいに集まって遊ぶという感覚ではない。親にどこか遊びに行かないの？と聞かれても、「遊びに行く場所がない。」と答える。

(委員)

年に1回、小学4年生が宿泊学習に行くのだが、子ども会のキャンプに行くときに川遊びしたらどうですかといっても、親から危ないと言われるから避けてきたのに、小学校主催の川遊びでは親の方が川に入って楽しんでいて、それを見た子どもたちも楽しいと感じる。頭の中で危険だと思い込んでいるだけで、やってみたらそんなに危なくはないということがたくさんあると思う。それこそ創造力を奪われていると思う。

(委員)

もう少し、親だけでなく、他人の大人と接する機会があれば。楽しいことも厳しいことも他人の大人と接する機会が少ないと思う。

(会長)

【目的】のところの、「これからの高松を担う子どもの創造力を、環境問題などと組み合わせながら開発するとともに」の次に「地域コミュニティと一体となった子育て世帯の支援による労働力確保につなげます。」としたら良いと思う。思考・判断・表現の中の思考のところを人は言葉で考える。言葉の力がもっと芸術に思う。

(委員)

小学校の男の子が一番最初にやったのは近くの田んぼに基地を作ることであった。それは、もう建築をやっている、創造的である。

(委員)

そういう遊びもできなくなった。

(委員)

基地を作っても、犯罪は起こらなかった。

(委員)

勝手にたんぼに入って！みたいなことはなかった。

(委員)

おしゃれな国にはなっているが、果たして創造力なのだろうか？

(委員)

心が貧しくなっている。

(委員)

いたずらだって創造的だったはずである。

(委員)

これだけ、田園都市の風景、海園都市という自然がたくさんある中で、そういうことを子育てに取り入れながら、第三者の大人と地域コミュニティで何か一緒にするというのを増やすと創造的かも。クリエイティブは、都市的、先進的なイメージだけではない。審議会で出た意見であるが、クリエイティブを新しいことばかり追い求めず、香川の伝統的なことも伝えて欲しいと欲していたので、大事にしたい。

(委員)

自然科学系の体験ができる場所が少ないと思う。新浜や徳島にはアスタムランドがあるが、高松にはない。

(会長)

空港のこどもの国ぐらいだ。

(委員)

クリエイティブと言った時に文系のアプローチが中心になりがちである。ここにいる人も文系の人ばかりである。アートや工芸、観光。メディアアートとテクノロジーと上手く組み合わせさせてクリエイティブな発想はたくさんある。しかし、そういったものは、子どものころから触れていないと生まれにくいと思う。そういった場所があまりない。息子はそういうのに興味を持っているのに、新居浜まで行かなければ行けない。自然科学とクリエイティブ、そこも絶対必要だと思う。

(会長)

子ども未来館がそうなればいい。森の自然、オーストラリアの話。

(委員)

企業でもできる。みなさんの企業に小学生を呼んで、クリエイティブな部分を担当させてあげたら。

小学生から中学生まで予約待ちでいっぱい、その為に一人付けているが、その人権費を行政が負担してくれたらありがたい。

(委員)

琴電でも年間200件くらいやっている。

(委員)

対応能力を超えるので断り続けている。大学生が来てくれたら実務を分担できるので人件費が浮くくらいだが、小学生は大変である。子ども扱いできないし。そういったところにリアルキッズニアの助成金があれば。

(委員)

まちをあげてリアルキッズニアは楽しいと思う

(委員)

この間、ミクニさんで小学生が考えたメニューを出してくれた。儲け度外視で、392円で売ってくれて、一番売れたらしい。

(委員)

教育審議会ではないので、創造都市という中で子育て、支援をできたらと思う。少し堅い気がする。

(会長)

スポーツは？

(委員)

今の話を聞いていたら、すべてスポーツで解決できるなと思う。親も子どもも遊び方が分からないというのが一つ。なかなか自分の意見が言えない、自信がないというのは達成感を味わったら解決できると思う。スポーツは目にみえて達成感を味わうことができるし、自己肯定にもつながる。キャンプで子どもたちが大きい怪我をしない

ためには、小さい怪我を重ねること。自己防衛もできる。スポーツは子どもにとって重要だと改めて実感できた。

今、あるクラブで指導しているが、児童養護施設の中学生を30名ほど招いて1泊2日でキャンプに行くという行事を社会貢献としてやっている。スポーツはどちらかというと創造力というより、可能性という言葉をよく使って、可能性を引き出すということが多い。

平成23年度から文科省が始めたのが、小学校にトップアスリートを派遣する助成事業。どんな結果が出たかという、教え方が上手いので、まず、あきらめなくなった、第三者がその場にいるのでいじめが激減した、先生はまじめに学んで指導がうまくなった人と、その一方アスリートに頼りすぎて指導力が低下したという2つの先生があらわれて、教える側も大事だと思った。

母親力を向上させるのは大事だと思っていて、今、地域スポーツで一番課題なのは、共働きで、盛んだったスポ少も、お母さんが手伝いに来られないから、入れてあげることが断念していると聞く。共働きは、環境や課題としてはかなり大きな問題だと思う。

それに追加して、わりとお金で解決しがちな親が多い。夏休みに1ヶ月30万円で子どもをキャンプに預かるという企画をしたら大好評だった。この企画は

親が手を離れているから、子どもがどのように成長したかというのは見られない。それだったら、親と一緒に、1泊2日でキャンプしたほうがいいのかなと思う。全部をお金で解決してくのは教育力的にはどうかと思う。子どもにとってスポーツを役に立てられるかと思う。

(委員)

香川のプロスポーツクラブが子どもたちに教えに行っているのは、全国トップレベルだと聞いた。

(委員)

香川というちっちゃい県に4つのトップスポーツチームがあることはすごいことだと思う。

(委員)

スポーツは広すぎて、勝敗がつくスポーツが、勝敗をつけずにベスト4までが優勝というふうになってきている。そんなスポーツももっとそっちに行くべきか？

(委員)

生涯スポーツのほうとしては、金メダルというよりは、遊び方を知らない子どもたちに、まず遊び方を教えてあげる。また、転び方がわからない子どもたちもいて、転ぶ時に手を付けないから顔から転んでしまったりする子どもが増えた。そういうことがあって、小学校の指導要領が去年からかわって、小学校1、2年は、小学校の先生と遊びながら、体の動かし方を教えてあげましょうとわざわざ書いている。

(委員)

スポーツというよりは運動能力の低下である。運動もDSも知っているけど、DSをとらざるを得ないのかは面白さが足りないのか、面白さを伝え切れていないのか。

(委員)

ゲームばかりするといっていたが、ゲームの世界では子どもたちがどうやったら楽しめるかというのを追求してきたからで、スポーツ界がそれを怠ってきたとからだと思う。

(会長)

今の話で、取組みイメージの中に書き込んだらいいと思うのが、トップアスリートと呼ぶということである。子どもにトップレベルのものに触れさせることで、目の前の広がりを広げてあげられる。全ての分野においていろいろなものに触れられるチャンスだと思う。

(委員)

トップアスリートというのは世界的な選手なのか？プロ選手も？

(委員)

文科省が定めているのは、国内レベルで、国体選手だったり、ここで重要なのは、子どもたちに教えるということであって、金メダルをとって優秀な選手より銅メダルで教え方が上手な選手のほうが地域で求められている。マッチングというのは現

場次第である。

(委員)

トップアスリートが身近にたくさんいるわけですから。マッチングの問題は解決ですね。

(会長)

育児支援サービスの推進と書いているが、これは確かに労働力確保につながるが、果たして。

(委員)

これは、年齢だと思う。未就学児とか、幼稚園だと夏休みがあるから、保育園に預ける。

(会長)

拡充はいいが、拡充って民間のサービスの推進なの？

(委員)

取組みイメージの子育てをしている、育児支援サービスの推進というのが創造都市としてすることなのかな？と思う。

(委員)

芸術士が有名になってきたが、現在の芸術士をかかえている問題点などがあれば教えていただきたい。

(局長)

芸術士の派遣は他の局なので詳細は分からないが、大きく2つに分けて、芸術士の数とコストだと思う。派遣して欲しいというところはたくさんある。

(委員)

その負担はどうやっているのか？

(局長)

行政側がやっている。高松市がやっている事業は高松市が負担している。

(委員)

芸術士の取組みは素晴らしいだが、それを必要としなくなるのが、創造都市だと思う。例えば、友達同士がそういったことを発表しあって、自分たちで創造的に進んでいけばいいが、それをできない現状だから芸術士が補っている。

(会長)

子どもでこぼこを伸ばしてあげることだと理解している。先日、芸術士を採用していない保育園の園長に話を聞いた。採用しない理由は、教育的な枠組みからはずれているからだそうだ。つまり、してはいけないことなど、基本的ルールの上でしてくれればいいが、彼らはしてはいけないことも肯定してやらせてしまうので、そのあたりが、整理が必要。

(委員)

局面ではいいかもしれない、そうではないこともある。

(委員)

大人が思っている以上に子どもは、単純じゃない。大人になるほど忘れてしまっている部分を押し付けてしまうということがある。歌舞伎なんて幼稚園児は遊んで走り回るといふ念頭で始めたが、きちんと座って、台詞を言う人、三味線を弾く人を真剣に見て、感想文も送ってくれる子もいてすごいと思った。子育ては子を育てながら親も育っていく。

(会長)

子どもたちは、空気をどう考えるか。子どもにペーパータオルを濡らしてしばらくして乾いた時に水はどこにいったかという質問をした。2つの答えに分かれて、4人は空気が乾いているから乾いたと、4人が洗濯バサミと空気が一緒になって乾かせた。どちらも否定しない。受け手側の可能性が必要である。

(委員)

否定しないということは、コミュニケーションができない子どもを否定しないということであり、コミュニケーション能力を伸ばそうという話である。社会に上手く適応していこうという発想で文系的な発想だと思う。クリエイティブだと思う会社は、エンジニア系だと思う。理科系のところからクリエイティブなことが生まれているということが、世界中に起きていることを目の当たりにしているにも関わらず、文系的

にバランスのいい人間を育てようとしている。そうなりがちなのが恐ろしいと思う。理科系の例えばおたくは、コミュニケーション力はないが、その人たちが、世界中で会社を作ったり、プロダクトを作ったりしている。それを私たちは使っている。どうバランスのいい人間を育てるか、ベースにコミュニケーション能力があるという話は、逆に怖いと思う。

(会長)

ベースにコミュニケーション能力でもない。

(委員)

コミュニケーションといってもスポーツと同じで広い。職場体験の前に小学生が電話してくるが、「お忙しいところ大変失礼いたします。〇〇小学校の〇年〇組の〇〇です」と先生が作った見本を読んでいる。これがコミュニケーション能力を高めるものだと思っているのであればやめたほうがいい。しゃべれなくてもいい。自分の心を伝えられたらいい。すごいプロダクトを作った人も、自分がもっともいいと思ったものは、まったく伝わっていなくても永遠と説明し続けられると思う。伝えたいと思った時に我慢しないで欲しい。そこを伸ばしてあげたい。

(委員)

どうやってこれができてきたのだろうという「？」を追い求められる子どもが育ったらいいと思う。

(委員)

子どもの頃は芸術士の活動を喜んでいても、高校生や大学生になったときにアーティストになりたいと言うと親は反対する。

(委員)

創造力=アートではない。

(委員)

いろんな人に会ったり、いろんなものを見るほうが伸びると思う。そういうものを見るという環境がある方が、よっぽど創造的。

(会長)

取組みイメージに都市としての多様性と寛容性をどう書くか？

この子どもの項目は、「技術」「テクノロジー」「多様性」「寛容性」リチャード・フロリダが言っていた創造都市に必要な3つの項目がすべて入る。

(委員)

コミュニケーションでなくエデュケーションである。

(委員)

自分の自己肯定力と羞恥心とのセルフコントロールなのかなと思う。それを受け止められる親。

(委員)

最近、幼稚園児くらいの年代で、暴走して感情をとめられない人が多い。

(委員)

小学生でもいるみたい。そういう子は親が呼ばれて、その子がダメみたいな感じに言われる。個性とは見てくれない。

(委員)

幼稚園の段階では、1人支援の先生がついて、だいぶ底上げされてまったくわからない状態になった。先生が気づいてやってくれるが、親が直面して言われると、うちの子に限っては違うというのがあると思う。

(委員)

病気と認められている。昔はなかった。

(委員)

それを病気としてしまうか。

(委員)

それを社会が直した。

(委員)

親も、最近の親は怒らない。

(委員)

第3者が怒ったらダメだという固定概念がある。子どもは褒めなければいけないと

いう。

(会長)

保育園の先生と話したが、声かけ、反応してあげるタイミングがすべてと言っていた。親が忙しいし、子どもを孤立させている。そういう意味の親の支援が必要だし、親だけでなく地域も含めて子どもを見守り育てるべき。

(委員)

3行目のところの文章の書き方である。もう少し具体的イメージをもった書き方がよい。創造都市という題目がなくこれを見ると、子どもひとりあたりいくらもらえるのみたいな意味に捉えられそう。3行目はいま話していたニュアンスに書き換えたほうがよいと思う。

(委員)

自分は子どもがいないが、子どものいる親御さんは、創造的な人間になって欲しいと思っているのか、社会に適応できてちゃんと生活していける人間に育てて欲しいと思っているのか、それによってどうするか対応が変わってくる。全員が前者なら、行政としても、そっちを育てていけばいいし、後者が多いのであれば、社会に適応できるような街づくりを進める必要がある。

(委員)

親になってわかったことは、自分の親が自分にしてくれた以上のことを、自分の子どもにはできないのだと思う。どういう創造的な親になるか、親の教育もセットが必要だと思う。家系がいいとはそういうことだと思う。自分の子どもに英語の教育をしたいと思った時に、英会話教室以外の選択を知らなかったり。自分の子どもを東大に行かせるというときに、自分が目指していないから、どういうプロセスやメソッドがあるのかを知らない。創造的な子育てを受けていないと、わからないのでは。

(委員)

親世代もいろんな人と関わる必要がある。

(委員)

創造都市高松を10年後、20年後、ゆっくり目指していくなかで、子どもに対する政策を決めて、コミュニティで解決しようとかスポーツで解決しようなど、様々だが、優先順位をつけていかないと、我々の思いは伝わらないと思う。

(会長)

平行はないのか？順位づけか？

(委員)

何に力をいれるかといったら具体的でなければいけない。優先順位が必要である。何が良くて何が悪いという話ではない。

(委員)

プログラムが多いということが大事で、コミュニケーションを重視して、語学を学ぶとか、永遠と虫の観察をすとか、プログラムがちゃんとあるということが原点で、多様な育ち方があるというのが創造都市だと思う。

芸術士はクリエイターを育てようとしてやっていっているわけではない。多様性を肯定するような人を育てていこうとしているはずで、アーティストを目指してほしいわけではないはず。

優先順位をつけるということではなく、それぞれの子どもに応じたプログラムがあるということ。親だけの問題にしてしまうと、共働き社会ではしんどいと思う。行政や地域、企業が多様なプログラムを用意していることが大切だと思う。

(会長)

多様性と寛容性ですね。

#### 【連絡事項】

- ・U-40からメディアアートの創造の提案をした。
- ・ビジョンは10月策定なので、出来たときにまたU-40の会を開く予定。

(以上)